

狭山市 新・公共交通ネットワーク再編（案）

1 市内循環バス「茶の花号」ルート案（車両 全体 3 台）

【水富地区】（車両 1 台を運用）

水富地区と狭山市駅をつなぐ連絡ルートで運行を行います。

ルート概要

狭山市駅西口 ⇄ 狭山市役所 ⇄ 入間野田モール

ルート決定の経緯と合理性

以前、まちなかを走行していたルートが廃止されたことで不便を感じる方がいたため、「旧ルート」の復活案が浮上しました。しかし、旧ルートに戻した場合、「行きと帰りで乗降場所が異なり、バス停が離れてしまう」「目的地まで遠回りになり、乗車時間が長くなる」といった利用者にとってのデメリットが生じます。

分かりやすさと速達性を確保したいため、市民分科会の代表者委員を通じて自治会へ改めて意見聴取を行った結果、特段の要望もなかったため、利便性の高い「これまで通りの往復ルート」を踏襲することとしました。

また、新たな目的地として「狭山市役所」を追加し、さらに「運行本数を増やす」ことにより一層のサービス向上を図ります。



【入曽地区 東西ルート】（地区全体で車両 2 台を運用）

東ルート・西ルートで車両を固定せず、入曽地区全体で 2 台を柔軟に活用し、需要や時間帯に応じた効率的な運行を行います。

入曽地区 東ルート

ルート概要

入曽駅東口 ⇄ 赫下 ⇄ 西武フラワーヒル

特徴と利用実態の反映

大型商業施設等が立地する入曽駅東口周辺のへのアクセスを向上させるとともに、新たに入曽地域交流センターへ乗り入れることで、公共交通の利便性を高めます。

また「北入曽方面に比べ、西武フラワーヒル方面の利用が多い」ことや「あぐれっしゅげんき村への利用が少ない」ことを踏まえ、需要に応じたルート・ダイヤ編成とします。

入曽地区 西ルート

ルート概要

入曽駅東口 ⇄ 武蔵藤沢駅

ルート再編とダイヤ改善の狙い

これまで入曽駅西側エリアは「昼や夕方など、日常生活時間に適していない運行」であったことから、住民の皆様の実際の生活リズム（買い物や通院など）に合わせた、実用的なダイヤ編成を目指します。

実用的なダイヤ構築を目指すとともに、限られた車両の中で定時性・速達性を確保する観点から、一部の迂回ルートを見直し、入曽駅と武蔵藤沢駅をよりスムーズに結ぶルートへ再編します。

これにより生み出された時間を活用し、日常生活において少しでもご利用いただきやすい運行時間帯の設定に努めます。



2 デマンド交通の再編案

【堀兼地区】

地域主体により堀兼地区で実施してきたデマンドバスは、地域の皆さまのご協力により、日常の移動手段として定着してきました。

今後は、この仕組みを活かしつつ、隣接する奥富地区まで運行区域を拡大し、より多くの方にご利用いただける体制へと発展させていきます。

奥富地区への運行区域拡大とともに、堀兼地区内の移動手段については、路線バスとデマンドバスの役割分担を明確にし、地域全体として効率的で持続可能な交通体系へ移行します。

その中で、これまでの茶の花号「堀兼コース」については、一定の役割を果たしてきたことを踏まえ、その機能を路線バスおよびデマンドバスに引き継ぐ形で見直しを行います。

現状のデマンドバスの運行状況では「1台では不足、2台では過剰」という課題がありましたが、隣接する奥富地区に区域拡大することにより、運行体制に合わせた需要量を確保し、デマンドバスの効率的な稼働を目指します。

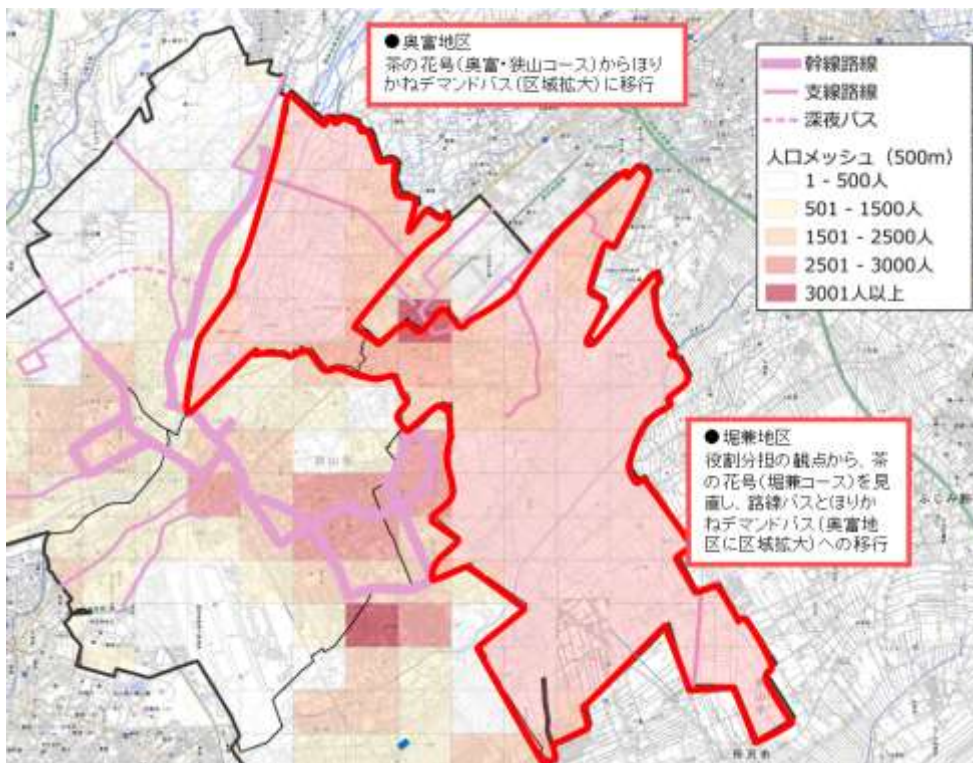
運行開始後は、堀兼地区の利用状況を丁寧に把握し、移動ニーズに対応できているか検証を重ね、必要に応じて運行内容の改善を図ってまいります。

【奥富地区】

ほりかねデマンドバスの運行区域を奥富地区へ拡大し、デマンドバスの効率的な稼働を目指します。

運行開始後は、奥富地区の利用状況を丁寧に把握し、移動ニーズに対応できているか検証を重ね、必要に応じて運行内容の改善を図ってまいります。

ほりかねデマンドバスの運行区域を拡大することに伴い、茶の花号「奥富・狭山コース」の運行を見直します。



3. 柏原地区の公共交通対策（民間路線バスとの連携と地域補完）

柏原地区については、市のバス（茶の花号）やデマンド交通の新規乗り入れは行わず、既存の交通資源と地域の支え合いを組み合わせた対策を推進します。

●民間路線バスの「基幹路線」としての維持・活用

柏原地区は、狭山市駅から柏原ニュータウン方面へ向かう民間路線バスが運行されており、地域の重要な「基幹路線」として地域公共交通計画で位置付けています。

市としては、この地域の身近な足である民間路線バスの運行を将来にわたって守り、安定したサービス水準を維持していくことを第一の方針としています。

また、民間路線バス会社と連携し、公共交通機関の魅力等を周知する取組、モビリティ・マネジメントを推進してまいります。

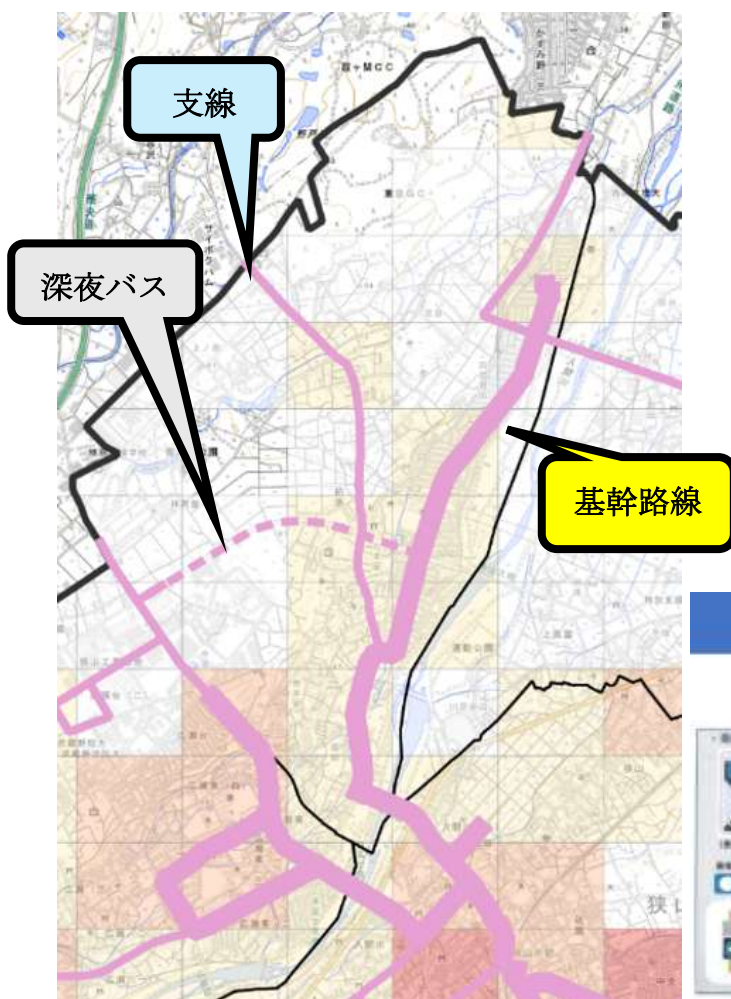
●交通空白地域への対応（延伸の見送りと代替手段）

柏原地区内の一部交通空白地域に対して、奥富地区からのルート延伸等も検討されましたが、「バスの転回場所の確保が困難である」等の安全上の理由から、大型車両による直接的な乗り入れは見送る判断としました。

●多様な移動手段（地域の支え合い等）の検討

市のバスが入れない細かな空白地域については、地域の特性に合わせた、よりきめ細やかな移動支援として、地域のボランティア輸送など、補完的な対策を福祉分野と連携し検討していきます。

（ボランティア輸送）



4. 本再編案が目指す「持続可能な公共交通」の実現（まとめ）

今回の新・公共交通ネットワーク再編案は、単なる路線の足し引きではなく、民間路線バスを守りつつ、「限られた車両（茶の花号3台及びデマンドバス2台）を、市全体でいかに無駄なく、市民の生活実態に合わせてフル稼働させるか」という視点で構築しました。

- 過去の反省を活かした「日常生活に合わせたダイヤ・ルート」への刷新（入曽・水富地区）
- 地理的特性を活かした「デマンド区域拡大」による需給バランスの最適化（堀兼・奥富地区）
- 民間路線バスとの適切な役割分担により、将来にわたって安定した交通網を維持する（柏原地区等）

これらを総合的に推進する、市民の皆様の日常的な移動（買い物・通院・駅への接続）をしっかりと支える、「持続可能で利便性の高い、新たな狭山市の公共交通ネットワーク」の実現を目指していきます。